

「2021年タイ・チュラロンコーン大学スプリングスクール オンライン留学報告書」

京都大学大学院 アジア・アフリカ地域研究研究科 博士5年一貫過程3年 (氏名) 杉野 好美

① 学習成果

今回の留学の目的は、将来、タイの薬草調査を行うため、最初の入り口として、言語や文化を理解し、知識と経験を身につけることであった。参加する前は、タイに1度旅行で訪れたことがあったが、タイ語を全く話すことができなかった。また、主な観光地に行ったため、タイの人々と交流する機会もあまりなかった。タイに関する知識は、私がアジア・アフリカ地域研究研究科に在学しているため、授業で少し学び、タイの研究者の発表を聞く機会があったが、これまでは受け身の姿勢でタイについて聞いていた。

タイのオンライン留学を考え始めてからは、私の本来の研究国であるインドネシア以外に、タイにも関心を持ち始め、3月はみっちりタイについて見聞きする時間となった。このプログラムが事前学習を含めて、タイ語の授業が半分以上あったことから、短期間ではあったものの、あいさつや日常生活に必要な単語を習得することができた。また、タイの文化については、概要・政治・祭り・宗教・食べ物・伝統工芸・歴史等、様々な角度からその分野の専門の先生の授業を受けることができ、基本的な知識を得ることができた。今後は、研究科にタイ人の留学生やタイを研究している先生・学生がいるため、引き続き彼らから話を聞き、可能であれば、来年度のタイ語の授業を受講し、学びを継続したいと考えている。

タイで過ごすことはできませんでしたが、タイ人の先生や学生とのオンラインの交流で、タイ人は優しくて明るい人柄であるという印象を持ち、新型コロナウイルス感染症の感染状況が落ち着いてきたら、実際にタイに行きたいと考えている。

② 海外での経験

今回、実際にタイに行って経験を積むことができなかったが、限られた状況の中で、オンラインという方法で交流ができ、今後、タイに行きたい気持ちが強くなったことはよかったと思う。また、日本にいるタイ人との交流や、タイに関する文献を読み、京都のタイ料理屋に行くなど現在できる範囲で、国際交流、海外への関心を持ち学び続けたいと考える。

③ プログラムの内容

オンライン留学という新しい試みの中、日本の生活を送りながら、2時間の時差に対応した授業ということで、昼食の30分休憩をお願いし、それに応じてもらえたのはよかった。時間割について、午前が言語、午後が文化という組み合わせはよかったと思う。なぜなら、言語は、毎回1人ずつ発言する機会が多く、脳をしっかりと使うため、朝の脳がまだ疲れていない時間帯に学ぶほうが効果的であった。私の個人的な意見になるが、オンラインの場合は、文化の授業は2時間の授業で集中しておこなったほうが、集中維持や効果的な学習ができたのではないかと考える。3時間の授業で、先生によって授業の内容が膨大で、休み時間が短いこともあり、途中で、疲労を感じた。

④ 進路への影響

将来的に、タイと本来の調査対象であるインドネシアの薬草の比較などを行っていきたいと考える。地域研究を行う上で、現地語や、その国の背景を知ることは必要不可欠である。今回の留学を最初のスタートとし、今後も、タイでの調査を踏まえて、言語やタイに関する文化などを学んでいきたいと考える。